

Report '09

平成21年度 上半期ミニディスクロージャー誌



豊岡市但東町：安國寺のドウダンツツジ

たじまに生きる たじまを活かす

 たじま農業協同組合

平成21年度上半期ミニディスクロージャー誌
平成21年11月発行

〒668-0046 兵庫県豊岡市立野町20-2
TEL 0796-22-7265(代)
<http://www.ja-tajima.or.jp>

ミニディスクロージャー誌の発刊によせて



平成二十一年度上半期ミニディスクロージャー誌をご覧いただきありがとうございます。本冊子を通して、当組合へのご理解を深めていただければ幸いです。

JAたじまでは平成二十年度より「たじまに生きる たじまを活かす」をスローガンにした中期計画に取り組んでいます。この中期計画は、但馬各地の特性を活かした農業振興をすすめるとともに、お互いに支えあう「協同活動」をJAの活動を通して広めることで、地域の活性化をすすめていくことを骨子としています。

JA運動を通じた但馬の元気づくりに精一杯取り組んでまいりますので、これからもより一層のご支援・ご鞭撻を賜りますとともに、皆様のJAたじまへの参画をよろしくお願い申し上げます。

平成二十一年十一月

たじま農業協同組合
代表理事組合長

金子 洋一

JAたじまのご紹介

JAたじまとは？

JAとは、Japan Agricultural Co-operatives（日本の農業協同組合）の略で、農業協同組合の愛称として使用しています。

JA（農協）は、人々が連帯し、助け合うことを意味する「相互扶助」の精神のもとに、組合員農家の農業経営と生活を守り、よりよい地域社会を築くことを目的としてつくられた協同組合です。

この目的のためにJAは、組合員の農業経営・技術指導や生活についてのアドバイスを行うほか、生産資材や生活に必要な資材の共同購入を行ったり、農産物を共同で販売したり、農業生産や生活に必要な共同利用施設の設置などを行っています。また、貯金の受け入れや融資を行う信用事業や万一の場合に備える共済事業などの事業や活動を行っています。さらに最近では、高齢者福祉活動や学童農園

への支援、ファーマーズマーケットなど地域社会とのつながりを強める活動に取り組んでいます。

現在、JAは全国のほとんどの地域で組織され、さまざまな事業や活動を行っています。JAたじまは、兵庫県北部の但馬地区を事業エリアとする農業協同組合です。

経営理念

JAは、協同組合の精神である「一人は万人のために、万人は一人のために」（相互扶助）を合言葉に農業従事者が協同の力で経済的・社会的地位の向上を図ることを目的につくられました。

JAグループでは、この協同組合の精神に基づきJA綱領を定めています。JAたじまでは、このJA綱領を経営理念としています。

経営方針

JAたじまでは、平成二十年度から、三カ年の中期計画「Plan 2010」に取り組んでいます。この中期計画では「たじまに生きる たじまに活かす」のスローガンのもと、三カ年間に取り組む主要な課題を四つにまとめ、これらの課題を達成すべく、様々な施策を計画しています。

詳しくは、ホームページをご覧いただくか、店頭に備え置きしています。ディスクロージャー本冊「Report '09」をご覧ください。

平成二十一年度上半期 ミニディスクロージャー誌目次	1ページ
ミニディスクロージャー誌の発刊によせて	2ページ
JAたじまのご紹介	3ページ
特集1 よみがえる名産「岩津ねぎ」	4ページ
特集2 みんなでがんばったよ あぐりキッズスクール	5ページ
特集3 地域ふれあい活動のご紹介	7ページ
平成二十一年度上半期の業績について	9ページ
JAたじまインフォメーション	10ページ



よみがえる名葱「岩津ねぎ」

150年前からの伝統野菜を、但馬から全国へ

朝来市特産の「岩津ねぎ」。寒くなる季節、鍋には欠かせない食材です。その歴史は古く、江戸時代にさかのぼります。但馬地域の寒さが厳しい冬期の生鮮野菜として受け継がれ、戦時中の逆境の時代を乗り越え、新たな地域ブランドをめざし、生産者とJA、行政が三位一体となって、取り組んできました。そして、これまで阪神間や地元市場など関西を中心としていた販売エリアを、今年度からは関東にも広げ、全国ブランドの確立に向けた第一歩を踏み出します。そこで、生産者の取り組みや将来の希望について、岩津ねぎ部会の小谷竹男部会長にお伺いしましたので、ご紹介いたします。

―部会の概要について教えてください。―
 平成十三年、JAたじまの合併を機に「JAたじま岩津ねぎ部会」を設立。設立当初は百五十九名だった会員数は現在二百四名と増え、栽培面積も約二十一・四ヘクタールまで増加しました。大正時代には、栽培面積が二十ヘクタールにも達しましたが、第二次世界大戦中に三ヘクタールまで激減してしまいました。その後、生産者とJA、行政が一体となり振興に取り組み、栽培面積も増加しつつあります。

―なぜ「岩津ねぎ」と呼ばれるようになったのですか？―
 約百五十年前の江戸末期、生野代官所の役人が京都から「九条ねぎ」の種を持ち帰ったのが始まりといわれています。そして、生野銀山で働く労働者の冬の貴重な生鮮野菜として、生野に近い朝来の岩津地区で栽培を始めたのが起源だそうです。その後、青ネギである「九

条ねぎ」が但馬の環境に合わせて変化し、昭和初期頃からの白ネギとの自然交配により、白ネギと青ネギの特徴を兼ね備えたネギになったとされています。

―「岩津ねぎ」のおいしさの訳を教えてください。―

「岩津ねぎ」は、やわらかくて甘みが強いのが特長。特に雪や霜にあたるほど旨みが増します。白ネギと青ネギの中間種で、青葉から白根まで余すところなく食べられます。

岩津ねぎは、春に種をまき、真夏に定植し凍てつく冬に収穫します。また白根を作るため三〜四回土寄せを行います。この独特の土壌と気候の元、手塩にかけて育てたネギは、やわらかくて甘みの強いおいしいネギになります。

―より良い岩津ねぎを作るために部会で取り組んでいることを教えてください。―

消費者が求める安全で安

心な農産物を提供することです。これは生産者の義務と考えています。そのため、部会では、農薬使用回数を減らしたり、有機質肥料を使用した栽培に取り組み、JAたじまの「コウノトリ

の贈り物」や県の「ひょうご安心ブランド」にも認定されています。その商品で降雪時でも安定して出荷できるような、雪よけ栽培や一週間毎の出荷計画報告を実施しています。また、栽培技術向上のため、栽培講習会や「岩津ねぎだより」による情報の提供などに取り組んでいます。

さらに優良な種子確保を行うため、平成十五年より採種圃を設置し、系統選抜を行ってきました。今年度より市場向きの長葉系の種子の配布をして産地の育成を図っています。

―これからの目標を教えてください。―

今年度、部会では高品質な岩津ねぎを十万ケース（三



【部会長紹介】
 JAたじま岩津ねぎ部会
 小谷竹男部会長
 5年前から本格的に岩津ねぎの栽培を始め、今年度から部会長に就任。現在は妻の八重子さんと約30アールで栽培。「コウノトリが全国へ飛ばたくよう、岩津ねぎも全国へ広げたい」と意気込みを語っていただきました。

百トン）出荷し、一億円以上の販売計画にしています。将来は岩津ねぎを全国ブランドにしていきたいと考えていますが、第一歩として、今期から初めて関東地方に出荷することになりました。全国ブランドにするためには、面積の拡大と高い品質が必要で、そこで労力の省力化を目的に、自動定植機の導入や「岩津ねぎ包装センター」の設置による作業の省力化を進めています。

そのため部会員と意見交換の場を増やし、理解と協力を求めながら積極的に活動し、生産者と栽培面積の拡大に向けてがんばっていきます。

―消費者の方々へ、メッセージをお願いします。―
 今年は、台風や長雨の影響で大きな被害を受けましたが、岩津ねぎを待ち望む消費者の期待に応えるため、部会員一同がんばって育ててきました。

これからの課題は、後継者を育成すること。現在は部会員の大半が六十歳以上。若い人に「魅力ある農業」と感じてもらうためには、安定した収益を得ることで、

岩津ねぎのお求めは・・

岩津ねぎは、主に阪神方面や地元市場へ出荷されています。但馬内の量販店では、トヨタ、にしがき、ジャスコ、マックスバリュ、コープこうべなどで販売されています。

贈答用として地方発送も行っています。贈答用のご注文は、JAたじま朝来営農生活センターまでお申し付けください。
 住所：〒679-3431 朝来市新井136-1
 TEL：079-670-4341
 FAX：079-670-4805





4月

開校式とトウモロコシの種まき体験。みんな少し緊張しながらも、すぐに仲良くなりました。

5月

田植えとピーマンの定植の体験を行いました。雨が降りましたが、みんながんばりました。

6月

乳牛の世話とアイスクリームづくり。大好きなアイスクリームづくりにみんなのテンションがあがった1日でした。

7月

7月はピーマンの収穫体験と田んぼの生き物調査。収穫したピーマンは、さっそく料理していただきました。

活動経過のご紹介

JAたじまのあぐりキッズスクールでは、農業体験活動を行うだけでなく、自分で作った産物を使った料理を作って食べるカリキュラムを用意しました。農業だけでなく、食と農のつながりについて理解してもらうことで、農業についてもさらに理解を深めてもらおうと企画しました。楽しみながら、食と農について学んだ子供たちが、但馬の農業の強力なファンになってくれることを願っています。

8月

8月は1泊でピーマン大追跡。自分達が収穫したピーマンがどのように食卓に届くのか勉強しました。

9月

いよいよ稲刈り。朝来会場は雨で稲刈りができませんでしたので、精米の過程をか勉強しました。

10月

10月はこれまでの活動の締めくくりとして、収穫したお米を使って、かまどのご飯炊きともちつき体験を実施しました。また保護者の皆様にも食育について学んでいただくセミナーを合わせて開催しました。



あぐりキッズスクール

JAたじまでは、消費者を対象として、食と農を結ぶ様々な活動を行っています。これまで、学校給食との連携・消費者交流会・ピーマンの栽培体験、そしてバケツ稲づくり等といった活動に取り組んできましたが、平成21年度からは新しく「あぐりキッズスクール」を開催しました。

あぐりキッズスクールは、子供たちに月1回の農業体験を通して食と農について理解を深めていただくことを目的にはじめたものです。今年度は、一般公募で集まった60名が、豊岡と和田山の2会場で4月から10月までの間、様々な体験活動を行いました。また、JAたじまの入組2年目職員が中心となり子供たちの先生役をつとめるとともに、一緒に農業体験活動を行いました。子供だけでなく若手職員も、初めて行う農作業にとまどいながらも、みんなで仲良くがんばり、先日、両会場とも卒業式を迎えることができました。

ここでは、今年度のあぐりキッズスクールで行われた活動の一部をご紹介します。

【 浜坂支店 】 諸寄海岸の清掃活動を実施

浜坂支店では10月10日、諸寄海岸の清掃作業を行いました。作業には、支店運営委員やJA職員ら30名が参加。ペットボトルやビニールごみなど、ごみ袋にして50袋以上を1時間余りかけて回収しました。

浜坂は、山陰海岸を世界ジオパークに認定してもらおうという運動の拠点となっています。ジオパーク調査専門員の谷本勇さんは「ごみ拾いなど地道な取り組みが一番大事なんです。」と清掃活動の重要性を強調されています。

小畑支店長は「この取り組みは昨年からはじめ、今年で2年目。浜坂には諸寄の他に、多くの美しい砂浜があり、毎年1か所ずつでもきれいにすることができれば素晴らしいと思う。」と話していました。



地域ふれあい活動のご紹介

みんなで地域を元気にしよう！

「組合員やJA職員が一緒になって、地域が元気になるような取り組みをしよう」と始まった「地域ふれあい活動」。総合支店毎にある「支店運営委員（農協委員、総代、生産部会、女性会員などで構成）」の皆様を中心に企画段階から参画いただきながら、活動をすすめています。

今年度も、各地で様々な取り組みが行われました。地域の特産品を活かしたイベント活動の他、社会貢献をめざしたボランティア活動なども行われました。ここでは今年度に行われた活動の一部をご紹介します。いただきます。

JAたじまでは、但馬の各地域が元気になるよう、組合員の皆様のご参加をいただきながら行う地域ふれあい活動に、今後とも取り組んで行く方針です。組合員の皆様の活動で、地域がより元気になりますよう、この活動へのご参加をお待ちしております。

【 但東支店 】 イベントでおにぎりコンテスト

但東支店では、11月1日に豊岡市役所但東総合支所前広場で開かれた「但東いどりフェスタ」に、地域ふれあい活動で参加しました。

メインイベントに、地元の小学生が参加したおにぎりコンテストを開催。但東町内の小学校から5チームとJA職員チームのあわせて6チームが参加し、アイデアあふれるおにぎりを作りました。農協委員や支店運営委員による審査の結果、最優秀賞にパワフルおにぎりチーム、優秀賞にはレインボーチームが選ばれました。優勝したパワフルチームのおにぎりは、ハムやチーズ、梅干し、鮭を使った十五夜お月さんのうさぎのもちつきをイメージしたもの。

塚本支店長は「小学生が一生懸命おにぎりを作ってくれ、地域の皆様に『食』の大切さをアピールできたと思う。」と話すとともに、来場者のひとは「おにぎりコンテストや新米おにぎりの試食など、企画もとてもよかった」と話していました。



【 朝来支店 】 あさごふれあい祭りを開催

朝来支店では、11月6～7日に「JAたじまあさごふれあい祭り」を開催しました。

朝来支店では、開催にあたって支店運営委員の皆様が中心になって実行委員会をつくれました。実行委員会では、開催までの間にいろいろと意見交換が行われ、当日は様々なイベントが催されました。

小林支店長は「今回で4回目となるふれあい祭りは、年々内容も充実して、来場者も増えています。グラウンドゴルフ大会、子供から大人まで楽しめるイベントや、女性会による岩津ねぎ汁、地元農家による農産物販売などにより、組合員同士の『ふれあい』も深まったと思います。実行委員会の皆様の尽力で、今回も盛況に終わったことを感謝したい。」と話していました。



平成21年度上半期の業績について

特に表記のない数値の単位は百万円です。

JAたじまの概要 (H21.9月末現在)

組合員数	45,345人
うち正組合員数	27,095人
うち准組合員数	18,250人
組合員戸数	36,516戸
うち正組合員戸数	22,912戸
うち准組合員戸数	13,604戸
出資金	4,653
金融店舗数	40店舗
営農生活センター数	12センター
職員数 (準・アルバイト含)	857人

主要勘定の状況について

	H20.9月末	H21.3月末	H21.9月末
貯金	327,651	326,007	329,335
貸出金	65,208	66,237	65,494
預け金	239,804	235,396	244,439
有価証券	21,446	20,721	18,831
長期共済保有高	1,686,601	1,652,111	1,611,100

単体自己資本比率について

H21.3月末(参考)	H21.9月末
14.74%	15.12%

単体自己資本比率は15.12%となりました。なお平成18年度末より、パーゼルIIによる自己資本比率規制が適用されています。

有価証券の時価情報について

	H21.3月末			H21.9月末		
	取得価額	時価	評価損益	取得価額	時価	評価損益
売買目的	—	—	—	—	—	—
満期保有目的	—	—	—	—	—	—
その他	20,948	20,721	▲227	18,665	18,831	165
合計	20,948	20,721	▲227	18,665	18,831	165

- (注)
1. 時価は市場価格等によっております。
 2. 取得価額は取得原価又は償却原価によっています。
 3. 売買目的有価証券については、時価を貸借対照表価額とし、評価損益については当期の損益に含まれています。
 4. 満期保有目的の債券については、取得価額を貸借対照表価額として計上しております。
 5. その他有価証券については時価を貸借対照表価額としております。

金融再生法開示債権区分に基づく保全状況

債権区分	H21.3月末	H21.9月末
破産更生債権およびこれらに準ずる債権	342	340
危険債権	775	971
要管理債権	52	61
小計 (A)	1,169	1,373
保全額 (合計) (B)	870	1,006
担保	305	325
保証	223	256
引当	341	424
保全率 (B/A)	74.42%	73.27%
正常債権	65,167	64,223
合計	66,337	65,597

- (注)
- 左記の債権区分は「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(平成10年法律第132号)第6条に基づき、債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として、次のとおり区分したものです。
1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権
法的破綻等による経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権
 2. 危険債権
経営破綻の状況にはないが、財政状況の悪化等により元本および利息の回収ができない可能性の高い債権
 3. 要管理債権
3か月以上延滞貸出債権および貸出条件緩和貸出債権
 4. 正常債権
上記以外の債権

JAたじま インフォメーション

年金セミナーを開催!

JAたじまでは、公的年金制度について理解を深めるとともに、将来のマネープランを考へていただくための機会づくりに、年金セミナーを十月に二会場で開催しました。

小さなお子様をお持ちの方も安心して参加しました。

いただいたお米の販売に託児所も設置し、若い女性の方を中心に大勢の方にご参加いただきました。

ゆとりあるセカンドライフにむけて、専門家による講演等が行われ、熱心にメモをとる参加者の姿が多く見られました。



平成22年3月1日
八条店が移転新築
オープン!

八条店完成予想図

十一月十三日、八条店の移転新築に向けて安全祈願祭を行いました。

新店舗はバリアフリー設計にするなど、高齢者の皆様にも来店いただきやすい店舗作りをすすめています。

オープンは、平成二十二年三月一日を予定しています。

コウノトリ育むお米 推進協議会が設立

コウノトリ育む農法で作られたお米の販売を通して、コウノトリが住める自然環境づくりを行うため、産地・流通・小売の関係者により『コウノトリ育むお米推進協議会』が設立されました。



販売活動を通じ、環境循環型農業の重要性についての情報発信も行ってまいります。

システム更改等にもなる ATMサービス等の休止のご案内

このたびJAバンクの全国統一電算システムのシステム更改等にもなる、誠に勝手ながら、下記のとおりATM・JAネットバンク等のサービスを一時休止させていただきます。ご不便をおかけしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

特に、休止期間中は現金のお引き出しができませんので、あらかじめ現金をお引き出しいただく等のご準備をお願い申し上げます。ご迷惑をおかけしますが、ご協力を賜りますようお願いいたします。

休止させていただくサービス			
JAたじま・JAバンクATMでのお取引	JAネットバンクでのお取引	他の金融機関やコンビニATMなどでの、JAたじまのキャッシュカードを使ったお取引	JAたじまのキャッシュカードによるデビットカードサービスのご利用

平成22年(2010年) サービス休止スケジュール	
1月	1(金)・2(土)・3(日)
5月	3(月)・4(火)・5(水)